



SDGsの達成に資する企業の活動

2018年9月7日

一般社団法人日本経済団体連合会

SDGs本部統括主幹

長澤 恵美子

nagasawa@keidanren.or.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



社会的包摂

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



経済成長

13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



環境保護

16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

「誰一人取り残さない」

I. 経団連の取り組みと、企業の取り組み状況

Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成
「Society 5.0 for SDGs」

「企業行動憲章」の改定

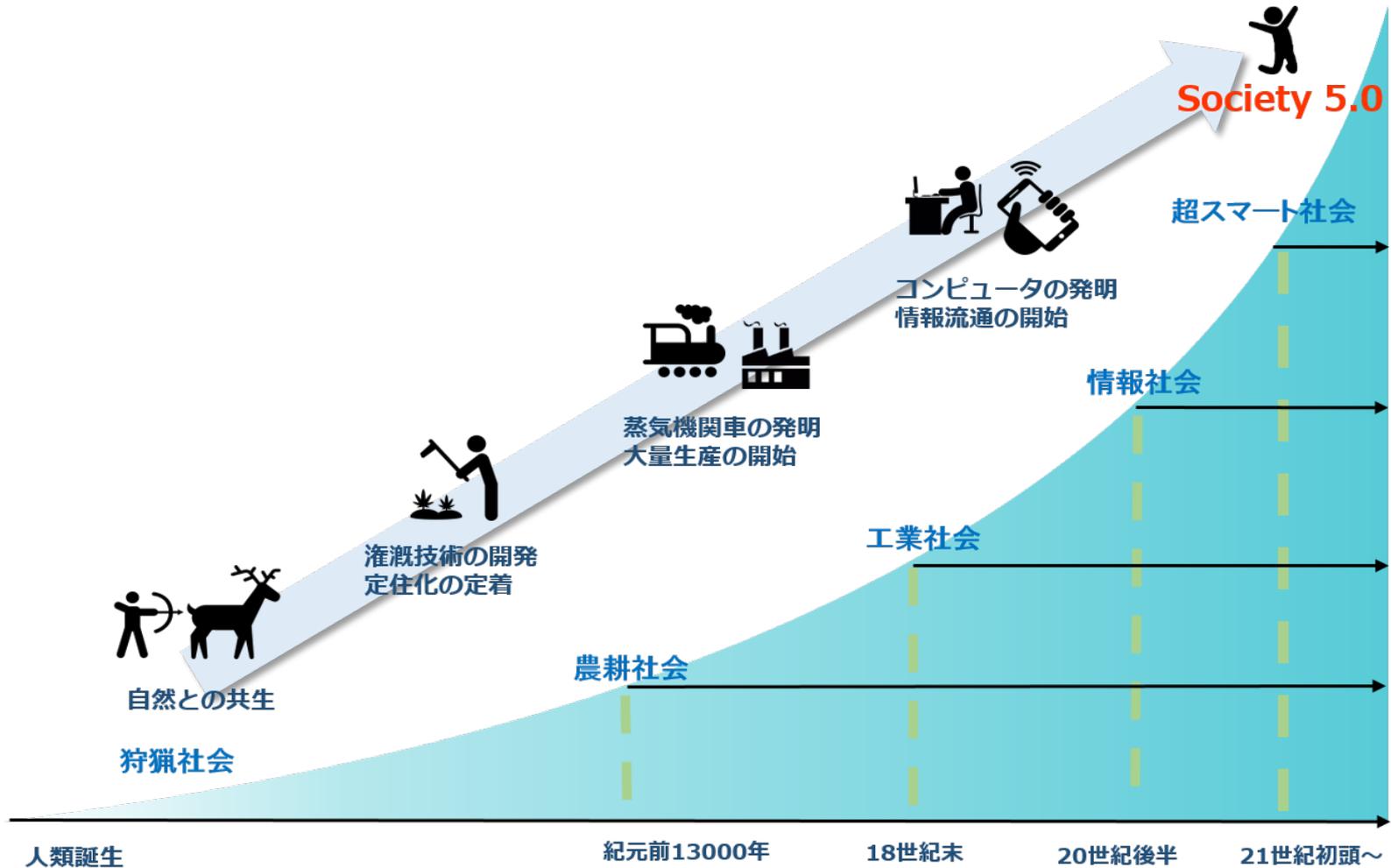
企業行動憲章に関するアンケート調査を実施

- ・共通する課題解決に向けた取り組み（インパクト評価、ESG価値創造等）
- ・さらなる理解・浸透のための活動

SDGsに資するイノベーション事例の収集

- ・国内外への情報発信
- ・連携のプラットフォームづくりの支援

- Society 5.0 -



AIやIoT・ロボット、ビッグデータなどの革新技术を最大限活用することにより実現する、経済成長と社会的課題の解決を両立した第5番目の社会のコンセプト

Society 5.0 for SDGs



企業行動憲章

— 持続可能な社会の実現を目指して —

2017年11月8日改定

企業は、公正かつ自由な競争の下、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う。そのため企業は、国の内外において次の10原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 持続可能な経済成長と社会的課題の解決

2. 公正な事業慣行

3. 公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話

4. 人権の尊重

5. 消費者・顧客との信頼関係

Keidanren
Japan Business Federation



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

6. 働き方の改革、職場環境の充実

7. 環境問題への取り組み

8. 社会参画と発展への貢献

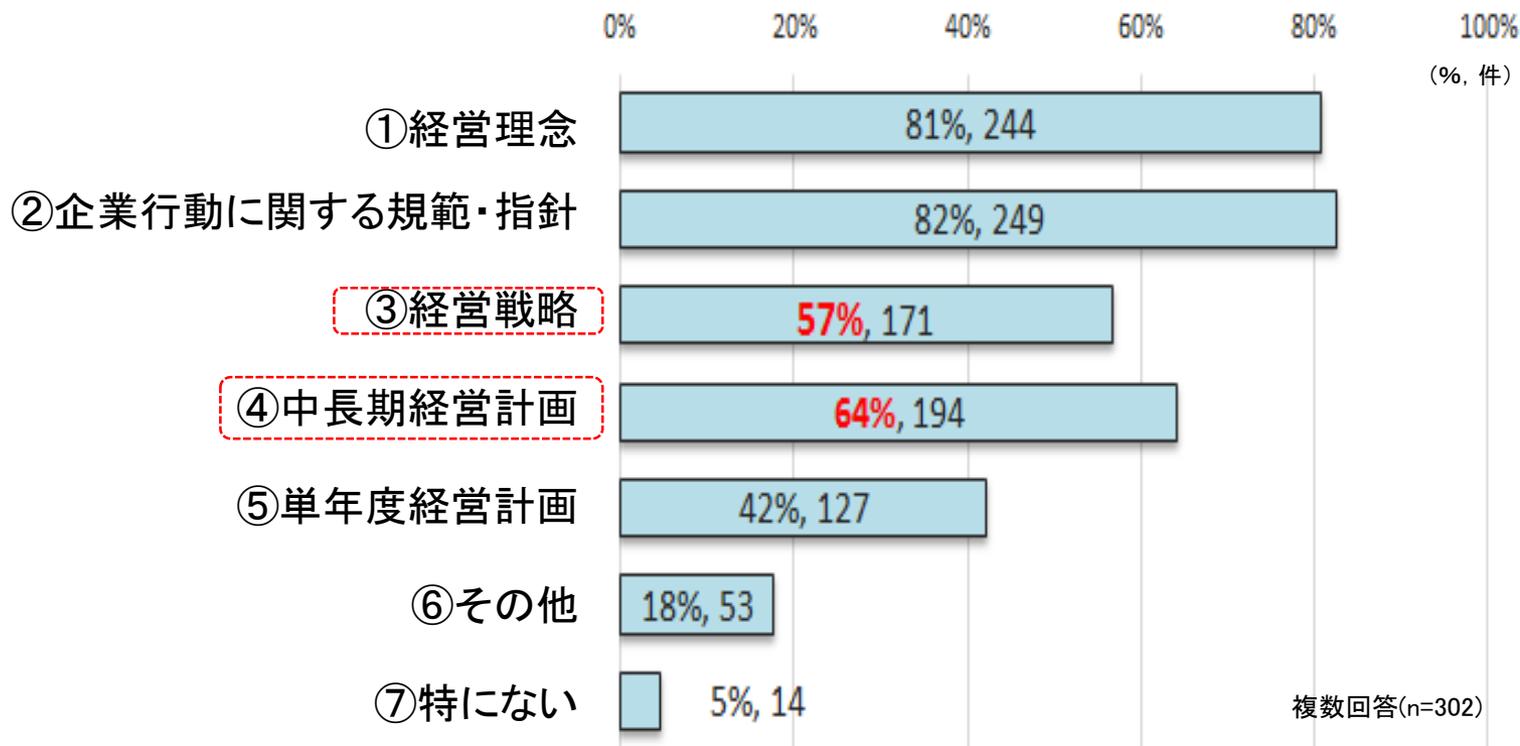
9. 危機管理の徹底

10. 経営トップの役割と本憲章の徹底

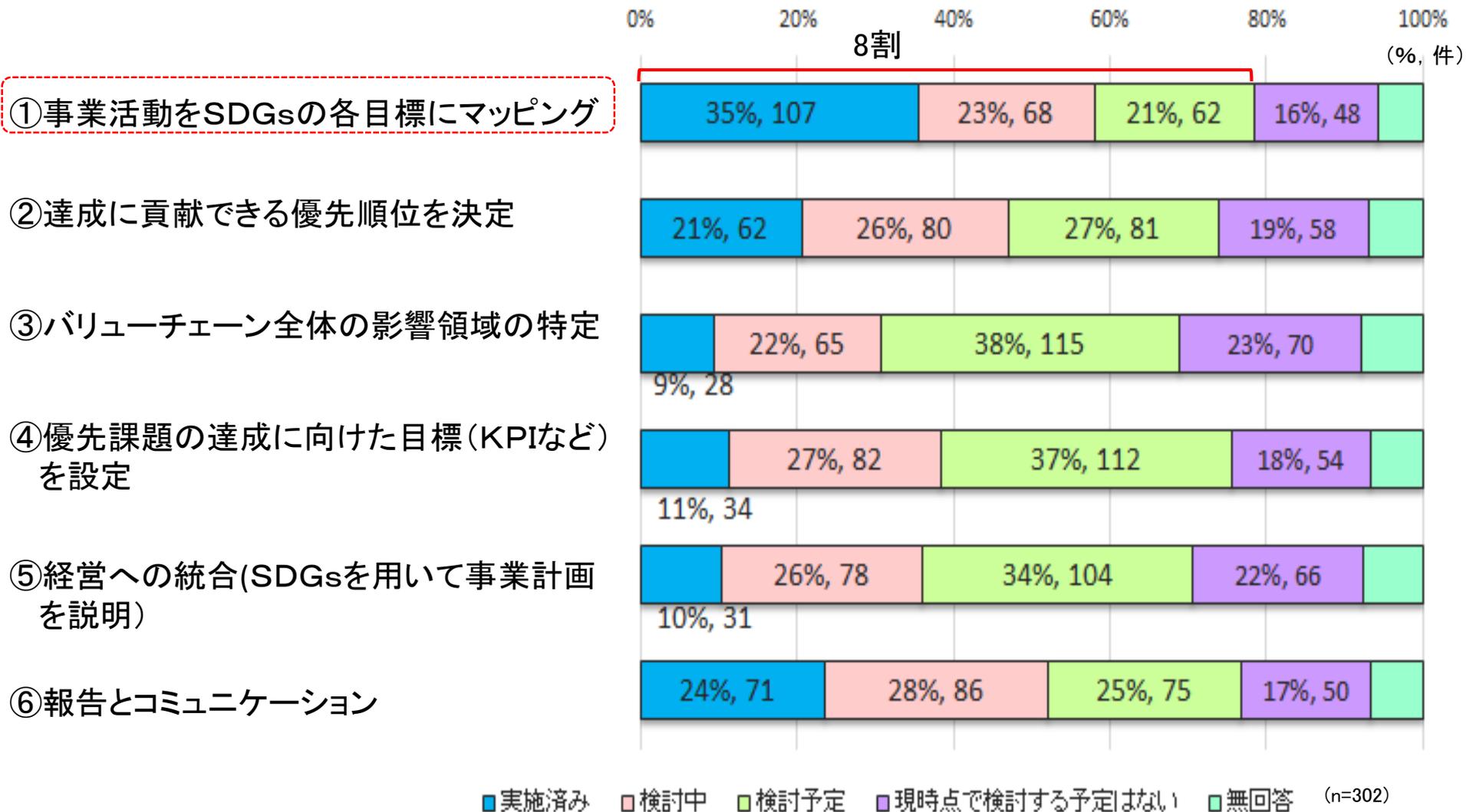
◆企業行動憲章に関するアンケート調査結果

【回答状況】	調査対象	回答数	回答率
経団連企業会員	1,373社	302社	22.0%
【調査期間】	2018年3月～6月		

(1) 憲章の理念「持続可能な社会の実現」の経営への統合



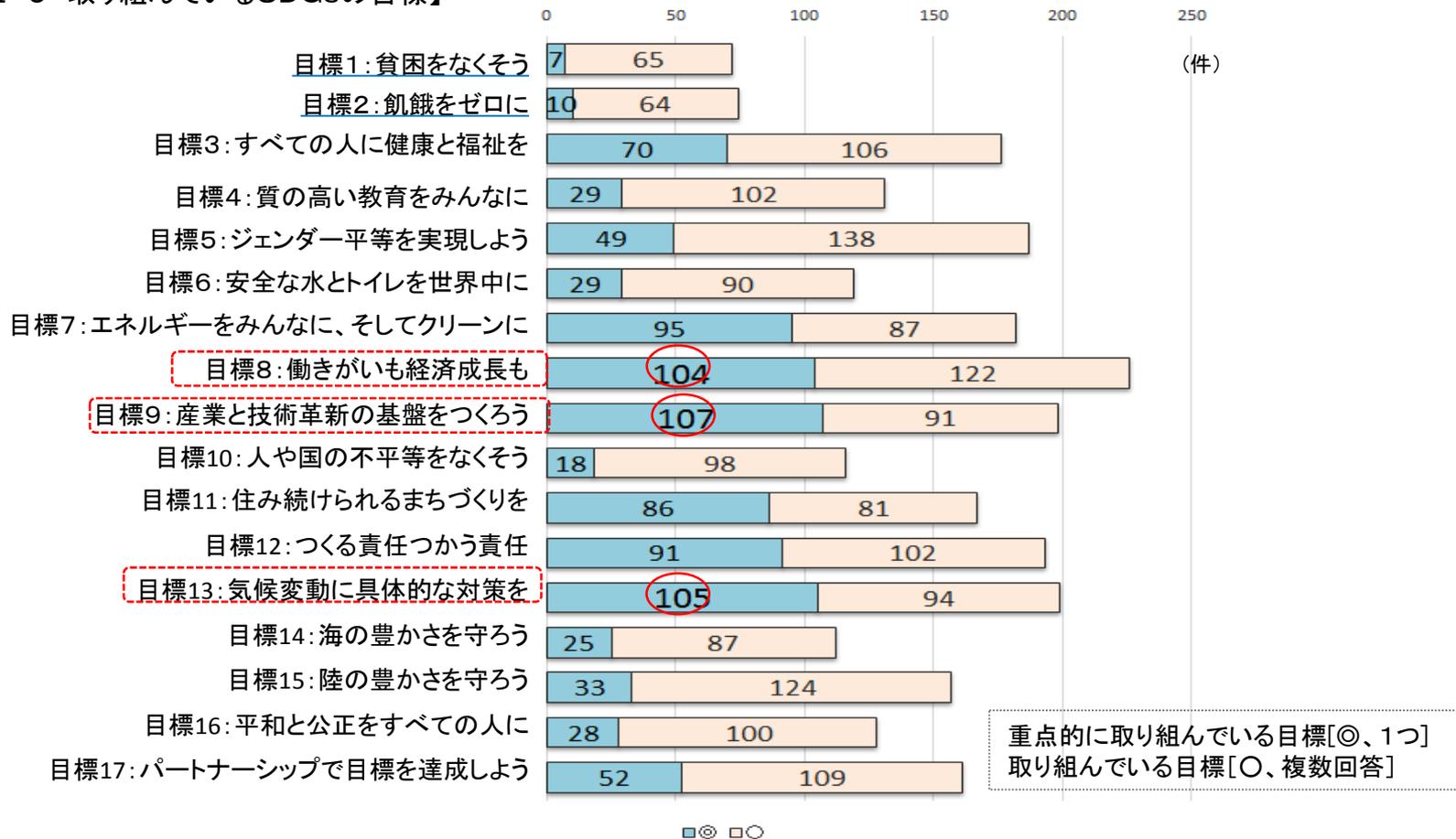
(2) 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み



(3) SDGsの17目標への取り組み状況

- 回答企業における重点的な取り組みとしては、①「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、②「目標13：気候変動に具体的な対策を」、③「目標8：働きがいも経済成長も」の順となっている。取り組んでいる目標をあわせた場合でも、同様の傾向となっており、事業との関連が高い経済・環境に関する目標への取り組みが進んでいる。
- 一方、国連が最も重視している貧困や飢餓への取り組みは少なく、これらの目標に企業が取り組むには、より具体的な課題提示や協働のプラットフォームづくりなどが必要になると考えられる。

【図表Ⅱ-5 取り組んでいるSDGsの目標】



◆SDGsに資するイノベーション事例集



事業名	SDGs	事業概要
精製保冷ジャパン日本興産(株)	6, 7, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100	...

本年7月、SDGsの目標ごとに企業のイノベーションを整理した、SDGsに資するイノベーション事例集「[Innovation for SDGs -Road to Society 5.0-](#)」を発表。日本語で165事例、英語で86事例であり、用いた技術やパートナー、定性的・定量的な評価・実績等が掲載

◆SDGs特設サイト

The screenshot shows the homepage of KeidanrenSDGs.com. At the top left is the logo 'KeidanrenSDGs' with 'HOME' below it. To the right are social media icons for Facebook, Twitter, and Google+, and language options for '日本語' and 'English (USA)'. The main header includes 'Society 5.0 for SDGs', 'SDGs事例集', and '経団連について'. The central focus is a large circular diagram titled 'Society 5.0 for SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS', which maps 17 SDG icons to various societal and technological concepts. Below this is a search bar with '企業名、タイトル' and 'SDGsの目標' as input fields, and a '更新順' dropdown. A search result is displayed for '(株) 竹中工務店' with the title 'BIMやIoT・ロボット化による建設業の生産イノベーション' and a brief description of their innovation efforts.

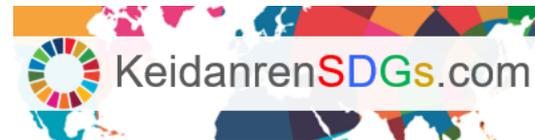
【コンテンツ】

◆ Society 5.0 for SDGs

- ・ Society 5.0とは
- ・ Society 5.0に向けた第1歩となるイノベーションなど

◆ SDGs事例集

企業名、タイトル別検索、SDGs169ターゲット別検索、Society 5.0との関連絞り込み等の機能を備える



URL : <https://www.keidanrensdgs.com/>

経団連SDGs特設サイト「KeidanrenSDGs.com」を開設。
「Innovation for SDGs」の全ての事例を検索可能な形で掲載しているほか、冊子版には掲載していない**最新の事例も掲載中**。事例は随時更新予定。

◆掲載事例の紹介



- IoTを活用した農場管理システム
- 農業機械の自動運転化
- クラウド牛群管理システム
- 完全自律型ドローンを用いた精密農業や野生鳥獣の被害抑制
- 地球観測衛星データを活用した保険の提供



- ウェラブル型端末から得られるバイタルデータのAI解析等による疾病の診断・予防・治療の支援
- IoTを活用して交通事故多発地点や運転者の健康状態を特定し、安全なルートや運転方法を提案
- 従業員の健診・医療データの分析による健康改善と健康保険制度の安定化実現
- コミュニケーションロボットを活用した介護支援



- 海水淡水化と下水再利用を統合した省エネルギー・低環境負荷型造水システム



- 太陽光発電と蓄電池を組み合わせた、クリーンな電力の安定供給
- 浮体式洋上風力発電
- 水素社会の構築…水素100%のガスを燃焼できるガスタービン開発、水素サプライチェーンの構築、水電解技術の開発期間を短縮する技術
- 太陽光発電量や電力使用量をビッグデータ予測する「ZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)」
- リチウムイオン二次電池の高容量化技術



- ロボティクス、センシング、通信、ハプティクス(感触の擬似的伝達)を結集したコミュニケーションやロボットの遠隔操作
- センサーとAI搭載ロボットの配置による複雑な施工の建設現場の効率化
- AIとロボットを活用した多機能型物流施設
- 企業や大学のイノベーションの社会実装を通じた課題解決型まちづくり



- 現場のIoT化とAIコントローラーによる製造機器の制御による熟練工並みのものづくりイノベーション
- 地域の課題解決に向けたオープンデータサイトの開設
- ICT技術の導入による効率的な畜産経営
- 機械学習を用いたプラントの異常兆候の把握

11 住み続けられる
まちづくりを



- 自動運転技術やIoTを活用した安全で正確なバス運行システム
- 高精度測位インフラ技術や音声認識技術などによる移動経路の誘導
- 災害発生確率のグローバル統計ベースの構築
- リアルタイムかつ遠隔操作での復旧工事
- IoTを活用した救援物資の配付円滑化
- 顔認証システム、犯罪・事故の未然防止警備サービス
- 水不足や洪水被害を防止する施工が容易な雨水貯水システム
- コンクリート建造物の容易な補修・補強を可能とする炭素繊維シート
- ゴミや汚泥をエネルギー資源として活用する総合エンジニアリング

12 つくる責任
つかう責任



- AI技術「異種混合学習技術」による需給予測をバリューチェーン全体で共有できる需給最適化プラットフォーム
- 大気温度上昇と日射量変動予測から大気汚染物質の排出量を推定した対策
- 植物由来の生分解性プラスチック
- 廃プラスチックの熱分解による再資源化
- 食品の賞味期限を延長し食品ロスを削減する包装



- 水素の安全かつ大量輸送技術、低コスト多機能型水素ステーション
- グリーンボンドの発行など環境金融
- 泥炭地での水位管理により、大規模火災や大量の温室効果ガス排出のリスクを軽減する植林技術
- 水混合燃料と排ガス再循環装置を組み合わせた窒素酸化物の削減、太陽光パネル搭載などの環境対応フラッグシップ
- バンパー、インパネの塗装工程省略によるCO₂やVOCの削減



- マグロ養殖におけるIoT、AI実証実験
- 鉄鋼スラグによる漁場・藻場の再生



- 土地の風土や気候に合わせた植物の栽培に役立つビッグデータの解析技術、農園管理に役立つ小型・高精度センサー技術の活用により、多種多様な植物の協生農法を確立(砂漠化の解消)
- 耐火性集成木材、木材による耐震補強技術の開発による森林保全と林業活性化

SDG BUSINESS FORUM

High-Level Political Forum
United Nations | 17 July 2018



**Transformation towards sustainable
and resilient societies**

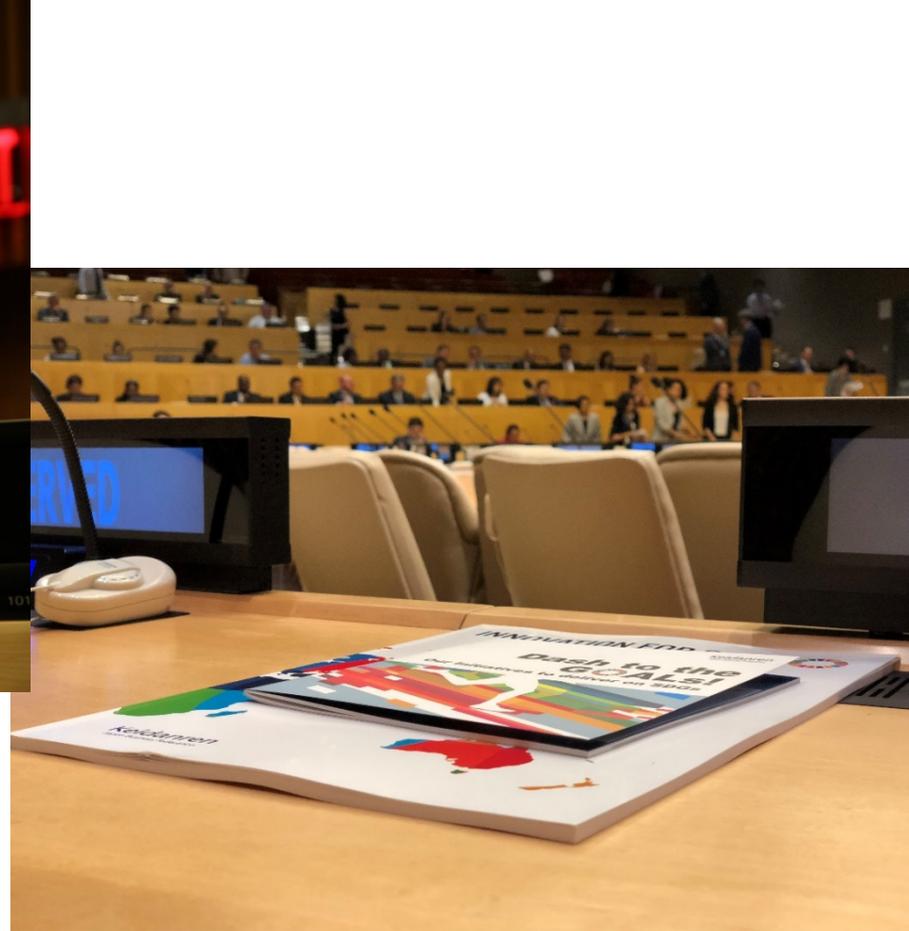
ICC INTERNATIONAL
CHAMBER
OF COMMERCE
The world business organization


UN DESA

 **United Nations
Global Compact**

Photo: UNDESA-DSPD Flickr

7月17日国連本部で開催された「SDG ビジネス・フォーラム」には650名（応募総数は昨年の4倍の4,000名）が参加 [共催： 国際商業会議所、国連経済社会局、国連グローバルコンパクト]



経団連のSDGsへの取り組みをまとめた小冊子「Dash to the GOALS！」と事例集「Innovation for SDGs」を会場で配付し、Society 5.0 for SDGsの取り組みを、二宮企業行動・CSR委員長から説明。「SDGs特設ウェブサイト」の開設を発表。

◆国連機関との連携

Society 5.0 for SDGsという1つの方向に向かって日本の産業界全体が動く、システマティックな実践を評価。



【シュタイナーUNDP総裁】

経団連の取り組みは**結果志向**で、企業の守備範囲を広げるもの。他国にも広めて欲しいし、UNDPも連携していきたい。



【モヒルディン世界銀行グループ上席副総裁】

世銀ではHLPFにあわせてSDGs各目標の進捗を可視化するデータを公表。経団連の小冊子や事例集は、**SDGsを経営に統合する企業の意欲と能力**を可視化している。



【ファビアンUNICEFイノベーション部門筆頭アドバイザー】

Society 5.0の一方で、数十億人の人々がSociety 1.0や2.0に取り残される。子どもたちを取り巻く深刻な課題を**最先端技術を活用して解決**するため、**企業にはコア・コンピタンスを活かしてUNICEFと協働してほしい。**

◆経済団体、SDGsネットワークとの連携



<国際商業会議所>

- SDG ビジネス・フォーラムで、経団連の発言の場をアレンジ
- デントン事務総長と二宮委員長が対談し、国連のオブザーバー・ステータスを持つ唯一の経済団体として、今後も経団連と連携していきたい旨の表明があった



<持続可能な開発のための世界経済人会議>

- 国連経済社会局との共催会合では、化学セクターのSDGロードマップ、人権に貢献するビジネス事例など、企業の実践に役立つ情報提供
- 日本メンバーとの個別会合を開催
- 10月のCouncil Meeting でSociety 5.0 for SDGsや特設サイトについて情報発信



<国連グローバル・コンパクト>

- UNGCとの個別会合、UNGC主要メンバー企業との懇談を実施
- 企業間連携の場としてのアクション・プラットフォームを提供
- 経団連との具体的な連携を相談予定



BUSINESS FOR 2030

<米国国際商業会議所>

- 企業の事例を集めたUSCIBのWEBサイト(Business for 2030)と経団連のSDGs特設サイトとの相互リンクを行う予定。

◆ 具体的な成果につながるアクションと連携が必要

- SDGs採択から3年が経過し、「持続可能で強靱な社会に向けたトランスフォーメーション」を実現するため、各国・組織の具体的な成果につながる「アクション」が求められる段階に移行(2019年9月には、最初の首脳級の進捗に関するフォローアップ会合を開催)。
- 企業には、コア・コンピタンスを活かした具体的な実践、その取り組みの成果を測定・評価し、報告することが求められる。
- その流れに沿ったものとして、経団連のイノベーション事例集やウェブサイトが評価された。
- 今後、取り組みの更なる規模拡大のためのオープンイノベーション、資金投入が求められる。
- 経団連としては、来年のB20やTICADなども活用して、国連機関や国際的なSDGs推進ネットワークと連携して、Society 5.0 for SDGsの取り組みを、国際的に広げていくことが重要。

SDGsを通じた連携による価値創造



社会的課題・ニーズの共通言語であるSDGsは、多様なステークホルダー同士の理解・連携、協働に有用なツール

ステークホルダーで、相互のニーズ(需要)とシーズ(供給)を整理し、**課題解決の観点から様々な垣根を越えて連携**

Keidanren
Policy & Action

経団連はSDGsを支援しています。

